



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2013.12

No.356

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



宇和田公園3つの謎に迫る！！

佐野 和宏(越谷市)

宇和田公園？ いったいどこだ？ 行ったことないな、なんていう方も多いでしょう。場所は埼玉県の北東のはずれ、もうすぐ茨城県・千葉県というところ。県内有数の鳥見の名所という訳でもなく、また、探鳥会の開催日が「ゴールデンウィーク」と「年末」ということで、行きにくいということもあるでしょう。ところが参加者は意外と多いのです。これは、まずここでしか見られない鳥、が出る為かもしれません。この鳥たちの出現理由を中心に、宇和田公園の3つの謎に迫ります。

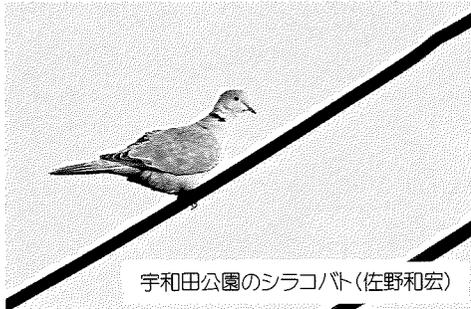
12月の探鳥会は当会の年内最終のイベントとなります。締めくくりの探鳥会は当地の開拓者であり、メインリーダーでもある中里さんの「こんな年の瀬に皆さん暇ですねえ！」の決まり文句から始まります。が、参加者の苦笑いの中、第1の謎である“シラコバト”はすでに出現しています。

● 第1の謎:シラコバト

近年は、養鶏場などの餌場が減少した為か、生息域が非常に限定されています。このような中、宇和田公園探鳥会では高い確率でシラコバトが見られます。

バス停から集合地である宇和田公園駐車場まで歩く間にすでに見られる場合もあります。また、駐車場に早めに着いた参加者がすでに周囲で見つけている場合もあります。大抵は探鳥会の始まる前に見つかる位、ここでは良く見られるのです。見られたときは、1羽から多くて3～4羽のことが多いのですが、2012年の年末探鳥会では、つがいと考えられるペアが最低でも3組、確認されています。従ってその時は、最多で8～9羽が近くで生息しているのではないかと思われました。

頻繁に見られるのは、隣接する工業団地内



宇和田公園のシラコバト(佐野和宏)

の電線や工場の建屋などの人工物で、行動範囲はそんなに広いとは思えないのです。しかも近くには餌場となるような養鶏場などは見当たらないのが第1の謎です。

現在、埼玉県では今年度中に保護計画をまとめる方針だそうです。この中で謎が解かれることを期待しています。何れにしても埼玉県民の鳥であり、県のマスコット、コバトンのモデルでもあるシラコバトが高い確率で見られるのはここだけでしょう。

第2の謎に迫る前に少し周辺の環境を見てみましょう。宇和田公園はもともと権現堂川という水路の土手だったところで、東西に長細い形状となっています。桜や椿が数多く植樹されている公園で、南側には田んぼが広がっています。北側は工場を挟んで中川が流れ、東側はこの中川から分岐した用水路が江戸川までつながっています。探鳥会では公園、田んぼと進み、中川の土手を戻ってくる「西行きコース」と、江戸川まで用水路沿に行く「東行きコース」の2コースで行いますが、いずれも他の探鳥地と比べ特別豊かな環境という訳ではありません。ところが、もう少し範囲を広げて周辺を見てみると、意外にも環境はいいことに気がつきます。

当地近辺は氾濫を繰り返していた利根川の治水の為に、江戸の昔より大工事が繰り返され行われたところで、これを象徴する「利根川と江戸川に分岐点」は公園から僅か3.5kmのところにあります。治水の歴史は当時の水運事情にも関連していて複雑な経緯を辿っていますが、同時にとても興味深いものです。「分岐点」に近い関宿城博物館には詳細な資料も



あります。現在の公園周辺には利根川、江戸川以外にも一般河川や用水路が複雑に流れています。

銚子や東京湾から川を上ってきた鳥たちにとっては、大小河川の入り組むこのあたりが豊かな環境と見えるのかもしれない。

● 第2の謎:イソヒヨドリ

宇和田公園は 2005 年から始まった歴史の浅い探鳥会ですが、2008 年と 2012 年の 2 回もイソヒヨドリが観察されています。

1 回目は、色鮮やかな♂が江戸川までの用水路コースに出現。類似種はないものの、万が一見間違えだったときのことを考えると、ここで「イソヒヨドリィー！」と叫ぶのはベテラン・バーダーも一瞬ためらったとのこと。このときは「気まぐれ個体が間違えてきたのかな？」くらいに思っていたのですが、昨年末の探鳥会では、今度は♀が現れました。

どうも偶然ではなさそうです。前記の「豊かな環境」が関連しているのかもしれませんが、それだけでは説明が難しそうです。海でよくイソヒヨドリを見ている方はご存知のように、この鳥は比較的警戒心が低く、港の人工構造物にとまることが多くあります。もしやこのあたりの工場景色が港のそれと似ていて落ち着けるのかな、などと一人で推理しています。

● 第3の謎:タカたちが常連

渡良瀬遊水地のように広大なヨシ原がある

わけでもなく、三室の様に多様な農耕地の環境がある訳でもないのですが、なぜか当地では猛禽類は少なくありません。

オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウは探鳥会の常連です。ハヤブサが中川沿いに低空を飛んでくれたり、オオタカがすぐ近く木にとまってくれているいたりして、なぜかサービスがいいのです。

ここまでは偶然かと思っていたのですが、2013 年 3 月 17 日、なんとハイロチュウヒの♂成鳥が現れました。松伏記念公園探鳥会のアフターとして、数名でシラコバトを探して中川沿いを歩いていると、対岸の土手の上に何の前触れも無く姿を見せたのです。

一同騒然とする中、すぐにカラスに追われて視界の外へ飛び去ってしまいましたが、よもや見間違えることはありません。なぜこんなところに？ この日は渡良瀬遊水地のヨシ焼きがあり、「帰り場所を失ったのかな？」などと考えましたが、ちょっと距離が遠すぎます。江戸川河川敷をめぐらして昼間の採餌に来ていたのであれば、探鳥会でも見られるかもしれません。

「昔はいろいろな鳥がいたのになあ」との嘆きの声が聞かれる探鳥会もありますが、ここ宇和田公園はまだまだ発展途上です。是非、皆様の眼で、第4の謎となるような鳥たちを探してみてください。

P10 の行事案内をご覧ください。12 月 28 日(土)、リーダー一同、お待ちしております。

2013 年秋 シギ・チドリ類飛来状況

日本野鳥の会埼玉 研究部

2013年秋の定例調査報告

日 時： 2013年 9月23日9:30～11:20

場 所：さいたま市 大久保農耕地

天 候：曇り

9月16日の本調査は、台風の影響で風雨が強く、協力者も集まることができませんでした。そのため9時34分の時点で中止といたしました。

しかし、「1度も中止せずに続いた記録が、途絶えるのはもったいない」との声もいただきました。そこで、9月23日に参考調査を行うことにしました。

突然の調査でしたが、当日は15名のご協力が得られました。ありがとうございました。参加者のお名前は、次号以降の行事報告で掲載いたします。

1999年までは毎年観察されていたムナグロですが、今年も観察されず4年連続記録なしという結果となりました。しかし、しめって

いた田んぼではタシギが21羽観察された。他に、初めてオグロシギが観察されました。

下の表は過去10年間の調査結果をまとめたものです。それ以前は、次のページおよび『しらこぼと』2012年12月号 (No.344) をご覧ください。

※表の中の「タシギ属不明種」、「シギ科不明種」は、種数には入れませんでした。

※2013年は本調査中止のため、参考調査の記録です。 (石井 智)



秋のカウント結果 (大久保農耕地)

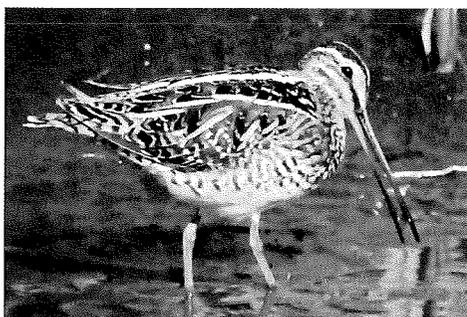
年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
調 査 日	9/18	9/19	9/18	9/17	9/15	9/21	9/20	9/19	9/17	9/23
天 候	曇	晴	雨・曇	晴	曇	曇	曇	晴	晴・曇	曇
1	タマシギ			2						
2	ムナグロ		13	8	70	8				
3	アオアシシギ		5							
4	クサシギ			3						
5	タカブシギ	6	1	7						
6	イソシギ				1					
7	オグロシギ									1
8	タシギ	1	60	23	15	4	9	5	7	21
9	オオジシギ			2						
	タシギ属不明種		2	2			1			7
	シギ科不明種	1	1	1						
合 計	2	67	44	40	75	17	6	7	0	29

秋の定例調査・これまでの記録から

この調査は1987年から毎年9月中旬に大久保農耕地で行われ、今年の参考調査で27回になりました。この調査でこれまでに記録された18種（チドリ科5種、シギ科13種）を、記録回数が多い順に並べたのが下の表です。第1位はタシギで、27回の調査中23回記録されました。第2位はムナグロ（27回中18回）。この2種が3位以下を大きく引き離しています。

記録回数が2回以下の種については、記録された年と個体数（カッコ内の数字）を記しました。2回のみ記録は4種、1回のみは8種でした。（小林みどり）

種類	記録回数	詳細な記録
タシギ	23	
ムナグロ	18	
タカブシギ	9	
クサシギ	6	
コチドリ	4	
イソシギ	4	
オオジシギ	3	
タマシギ	2	1991(1)・2007(2)
シロチドリ	2	1990(2)・1991(2)
トウネン	2	1991(2)・1993(2)
エリマキシギ	2	1997(1)・1998(2)
ケリ	1	1998(1)
キョウジョシギ	1	1991(2)
ヒバリシギ	1	1998(1)
オグロシギ	1	2013(1)
アオアシシギ	1	2006(5)
ホウロクシギ	1	1991(1)
コシヤクシギ	1	1998(6)
アカエリヒレアシシギ	1	1991(9)



第1位はタシギ

県内各地の状況

研究部主催の調査は9月の大久保農耕地1回のみですが、多くの会員が、夏から秋にかけてそれぞれのフィールドでシギ、チドリ類の観察を続けています。皆様から伺った各地のシギ・チドリの飛来状況とその生息環境の状況を紹介します。

情報をくださった皆様、ありがとうございました（文中敬称略）。

● 行田市内各地

シギ・チドリ類の生息に適した、水の入った休耕田の数は昨年に比べて減りましたが、7月末から8月初めにかけてアオアシシギ、コアオアシシギ、タカブシギ、コチドリが観察されました（吉原俊雄、吉原早苗）。

● 羽生市上新郷

今年も水が入らず、一部は畑になっていました（小林洋一、小林みどり）。

● 春日部市倉常

休耕田に毎年水を入れてくださるオーナーの話では、今年は水不足のため水を入れなかったそうです（内田克二）。7月末から8月初め、やや水がたまった一部の休耕田ではコチドリ、シロチドリ、クサシギ、乾燥した休耕田ではムナグロが見られました（小林洋一、小林みどり）。

● 越谷市大吉

大吉調節池の近くに今年限定で水が入り、アメリカウズラシギなどが来ました（植平徹）。☆詳細は『しらこぼと』11月号5ページの「野鳥情報」をご覧ください。

● 川越市南古谷

休耕田の状況（数、面積）は、私が観察を始めた4年前からほぼ変わっていません。今季は7月末から8月中旬にかけて、ムナグロ、タカブシギ、トウネン、ヒバリシギ、アオアシシギ等が観察されました（石塚敬二郎）。

ホンダ寄居工場のバードストライク対策 藤掛保司(川越市)

(株)ホンダが寄居町に建設を進めてきた寄居工場が、2013年7月9日に生産を開始しました。敷地面積約95万㎡(緑地28万㎡)に及ぶ同工場で、野鳥がガラス窓に衝突する事故が発生していると匿名の情報が当会事務局に届き、元同社の社員であった私に対応が一任されたのは、4月21日の当会役員会の席でした。

4月23日、状況確認のため同工場建設現場を訪ねました。現地は駅から徒歩約1時間もかかる小高い丘陵地帯を切り開いた場所でした。

担当者は「バードストライク」や「バードセーバー」などの聞き慣れない言葉に戸惑い、対策について尋ね返す状況でしたので、更に事例を調査して資料を集め、再訪することを約しました。

実際の生きた事例を集めたいと4月26日に(公財)日本野鳥の会本部を訪ねたところ、日本野鳥の会栃木の提案で宇都宮図書館に実施した例を紹介され、同図書館に出かけてきました。百数十枚の窓ガラスの内側にシールが貼られ、周辺の樹木に網がかけられていました。

北海道の個人的な探鳥会に参加した際には、数カ所の建造物について調査し、5月14日、根室市春国岱原生野鳥公園で、数年間にわたる対策について詳しく話を聞くことができました。その時の様子は、本誌7月号で紹介させていただきました。

5月19日の当会役員会議でそれまでの経過を報告し、様々な意見を集約した上で、5月28日、再度建設工事が進む現場を訪ね、調査結果の実施例の写真と報告資料、そして、今後どんな野鳥が衝突したか確認出来る様に、野鳥図鑑を贈呈しました。

その後、食堂の大きな窓にはブラインドを設置し、もともと異物の侵入を防ぐために小さく設計していた工場の窓には、更に防護ネットを設置したとの報告を受け、ひとまずほっとしたところです。

「昼探」「夕探」を楽しむ 石川敏男(春日部市)

「探鳥」といえば朝が相場でしょう。しかし、朝の弱い私は自宅周辺を中心に午後～夕方方の鳥見、「昼探」「夕探」を楽しんでいます。これはこれで新たな“発見”と“楽しみ”を見つけました。印象に残るものを紹介します。

その①、「バンの子の水泳訓練又は水浴？」

耕作機械の出入りのために水田の一角に稲を植えずに空けてある所があります。ある夏の日中、水の張られたそんな所でバンの大家族に出くわしました。親鳥はそれぞれ水面を挟んで東西の畔に立ち、黒い毛むくじゅらの雛10羽余りが水面を何度も往来する様子を見守っている感じでした。暑いので水遊びに興じているようでもあり、泳ぎの訓練のようでもありました。このような光景は以後2度と目にしてはいません。

その②、「モズの一発必中技」

ある曇り空の夕暮れ時、桜の枝先に止まっていたモズが急に飛び出しました。まっしぐらに田んぼ上空を進んだ先を目で追うと、ひらひらと動き回るコウモリが1頭。これを1発で空中捕捉したのです。直線距離20m位。不定の曲線と直線の交点。あっぱれな〜り！モズの見事な技は忘れられません。

その③、「チョウゲンボウの宙返り」

ある年の晩秋の夕暮時。広々とした刈田の上を往年の名機「ゼロ戦」の如く垂直旋回を繰り返す鳥が目に入ってきました。動きはとても軽快で目を凝らすと、なんと1羽のチョウゲンボウがコウモリを追尾しているではありませんか！ヒラヒラしながらも自在に方向転換するコウモリを相手に大分苦戦しているようでした。捕捉できたかどうかは定かではありませんが、面白い空中ショーでした。

その④、「タヒバリの罅入り」

昨年11月中旬の夕方。自宅北方の遊水地。普段は水はなく丈の低い草が生い茂っています。その上空を遠く近くと盛んに旋回するタヒバリの群れ。その数30羽+。私を警戒してか、なかなか降りようとしません。暫く動かず観察していると意を決したかのように次々と降下し始め、短時間の内にさっと草むらの中へ入ってしまいました。遊水地は彼らの罅であることを知りました。

その⑤、「コムクドリの大集団罅」

先月号の『しらこぼと』で報告しました。



野鳥情報

春日部市武里中野 ◇9月18日午後3時40分、サッカーグラウンド南端のフェンス上にスズメ大の小鳥1羽が目に入った。茶色い腹部が順光で目立ち、よく見るとノビタキ冬羽個体だった。15分位同じ位置で周囲を見渡していたが、そのうちどこかへ飛び去ってしまった。仲間がいるかとチェックしたが、皆無（石川敏男）。

上尾市原市沼 ◇9月18日、サンバ1羽、伊奈氏館跡の森から飛び立つが、上昇しきれずに森へ戻る（小林みどり）。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇9月20日、2時間椅子に座り、ノビタキ2羽、トビ。ここでは珍鳥のチョウゲンボウ2羽、空高く戯れる。アオサギは一年中見られる。10月10日、チュウヒ飛来、4日早く来てくれたら探鳥会で出会えたのに残念（野口修）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇9月28日、シジュウカラ数羽の群れに混じった2羽のコゲラが激しくバトル。体羽が何枚も落ちてきた（長嶋宏之）。

加須市加須はなさき公園と多目的グラウンド ◇9月30日、オオタカが上空をゆったりと旋回。銀杏の梢でモズが高鳴き。コサギ9羽に混じってダイサギ1羽が採餌。少し離れてチュウサギ1羽。大きさの比較ができた。遠くでカラス100羽士の群れ。数分の間、右に移動したり左に移動したり。その他、カイツブリ、カルガモ、アオサギ、ヒヨドリ、ハクセキレイなど（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月1日午後3時30分頃、雨が降り出し、急いで帰ろうとすると、目の前をキビタキみらしき個体がよぎったので、立ち止まって見ていると奥に何とサンコウチョウが1羽いた。キビタキ♀1羽も確認し、しばし観察を続けてしまった（菊川和男）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇10月1日と4日、桜の枝の中からカッコウの仲間が1羽飛び出し、屋敷林に入った。10月4日、ヒヨド

リの声が大きくなった。10月5日、ヒヨドリ10羽+が東から飛んで来た。渡って来たのだらう（長嶋宏之）。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇10月3日、オナガガモ♀エクリップス2羽、♀3羽、バン1羽、オオバン1羽、キビタキ♀、オオルリ♀。10月12日、オナガガモ♀エクリップス3羽、♀5羽、トモエガモ♀エクリップス1羽、コガモ5羽+、エゾビタキ1羽、キビタキ♀1羽（小林みどり）。

吉見町八丁湖 ◇10月3日、ダイサギが腹部を水に着けながら餌を探して歩いていた。カルガモ2羽が大きな水音を立てて、姿が見えなくなるほどに潜った。カッコウの仲間1羽が木の間に飛び込んだ。その他、コガモ14羽、カイツブリ3羽、カルガモ14羽、ヒヨドリ2羽、シジュウカラ、コゲラなど（長嶋宏之）。

吉見町下銀谷 N36.0334 E139.4616 ◇10月3日、白いサギ類が50羽±、ガードレールにとまっていた。近づいてみたら地面にも10羽±いた（長嶋宏之）。

川越市伊佐沼 ◇10月7日午後2時30分頃、沼の西側でハジロカイツブリ6羽を確認（大川清久）。

北本市北本自然観察公園 ◇10月8日、ウグイスが弱々しく微かな声で「ホーホケキョケキョケキョ」と鳴いていた。モズだろうか？その他、シジュウカラ9羽、アオサギ1羽、ヒヨドリ4羽、モズ高鳴き、キセキレイ1羽、エナガ6羽、カイツブリ2羽、コガモ1羽など（長嶋宏之）。

さいたま市北区芝川（県道2号線～鷺山橋） ◇10月11日、アオサギ1羽、ダイサギ1羽、バン幼鳥1羽、カワセミ♂1羽（小林みどり）。

さいたま市北区市民の森 ◇10月11日、芝生広場にセグロセキレイ1羽。シジュウカラやメジロの混群中にキビタキ♀1羽（小林みどり）。

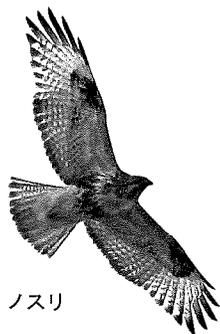
表紙の写真

カモ目カモ科マガモ属コガモ

10月6日、北本市石戸宿探鳥会で撮影しました。
田島利夫（深谷市）



行事案内



ノスリ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：未就学児無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月1日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス8:36発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、浅見、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：枯葉の舞い散る林で、カラの混群。高尾の池にはカモが勢ぞろい。桜堤を超えれば、枯野の上をタカが飛翔する予定です。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：12月1日(日)

集合：午前9時、さいたま市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：伊藤、赤堀、大井、倉林、須崎、手塚、野口(修)、藤田、若林

見どころ：待望の冬。水辺には、いろいろな種類の水鳥たちが集い、草原には小鳥たちが、上空には猛禽たちも姿をみせてくれそうです。今年の冬は寒くなるようです。寒さ対策をしっかりととして、お越しくください。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：12月1日(日)

集合：午前8時40分、東武伊勢崎線花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:14→久喜 8:27→花崎 8:34。JR宇都宮線大宮 7:53→久喜 8:15 で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、石川、植平、菊川、竹山、中里、星野、茂木、渡邊

見どころ：公園の中の鳥を探します。去年はヤマガラ、シロハラ、アオジなどを間近に観察できました。昨年 New Bird だったヒガラは今年も来てくれるでしょうか？

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月7日(土)

集合：午前9時30分、西武狭山湖線西武球場前駅前。

担当：石光、久保田、小林(ま)、長谷部、水谷、持丸

見どころ：カモ類、カイツブリ類等の水鳥とツグミ類、ヒタキ類等の小鳥…冬の基本種を効率良く観察できます。意外な珍客にも・・・？ ご参加いただいてのお楽しみ！

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：千島、新井、鶴飼、倉崎、飛田、中川、

村上、茂木

見どころ：土手にアオジ、カシラダカ、ジョウビタキ。鉄塔にはハヤブサ。途中ではベニマシコ。野鳥の森ではシロハラ、シメ、ルリビタキが待っていてくれるでしょう。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月11日（水）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:22発、南栗橋7:52で新栃木行きに乗り換え柳生8:05着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で東武日光線に乗り換え。

解散：正午頃、谷中村史跡ゾーン広場

担当：玉井、植平、大坂、楠見、田中、藤澤、松村
見どころ：冬の渡良瀬はチュウヒ、ノスリなどのタカ類が楽しみです。湖ではカモ類やカイツブリ類、白くなったミコアイサも。ベニマシコなどの小鳥たちも素敵ですよ。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月14日（土）

集合：午前9時20分、森林公園南入口前
交通：東武東上線・森林公園駅下車、北口から立正大学行きバス9:02発で「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南入口」は通過してください。

費用：参加費以外に入園料400円（子供80円）、65歳以上200円（要年齢を証明できるもの）。
担当：中村（豊）、大坂、岡安、佐久間、鈴木、内藤、藤掛、藤澤、松下

見どころ：カラ類の混群を楽しみながら、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ビンズイ、アオジなどを探します。キツツキも期待できそうです。落ち葉を踏みながら陽だまりの道を山田大沼まで歩きます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月14日（土）午後3時～4時ころ
会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：12月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ（ご注意：担当者

は8時過ぎに北浦和東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、赤堀、浅見、楠見、倉林、小菅、小林（み）、柴野、須崎、新部、畠山、増田、若林

見どころ：三室探鳥会に出なければ年が越せない！ という方達も多い定例探鳥会。9月10日と雨で中止。リーダー達も燃えています。いっしょに冬鳥を探しましょう。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：12月22日（日）

集合：午前8時35分、岩槻駅前。または、午前9時、文化公園国道16号側駐車場。

交通：東武野田線大宮8:19発、または春日部8:17発で岩槻下車。集合後バスで現地へ。

担当：長野、石川、内田、榎本（建）、菊川、小林（善）、玉井、長嶋、野村（弘）、藤原、吉安

見どころ：昨季のこの公園の主役はウソでしたが、今季はどんな鳥になるのでしょうか。例年よりも2週間遅い開催で、木の葉も落ちて小鳥は見やすくなると思います。ベテランはもちろん初心者も大歓迎です。

さいたま市・カモのカウンタ教室探鳥会

当会では毎年1月に県内約40カ所でカモ類のカウンタを行っています。今回、実施場所の新設や担当者の交代などで、新たにカウンタに加わる方が増えました。そこで、初めての方でもカウンタが出来るように、見沼自然公園でカウンタ教室探鳥会を開催します。カウンタに参加される方はもちろん、カモが好きな方、ビギナーの方、鳥についてもっと勉強したい方、どなたでも大歓迎です。

期日：12月23日（月・祝）

集合：午前9時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前10時、見沼自然公園入口のあずまや付近。

解散：午前11時半ころ、現地で。

担当：小荷田、小林（み）、浅見、工藤

持ち物：カウンタをお持ちの方は、ご持参ください。

ご注意：この日の午後から、下記『年末講演会』が開催されます。講演会にもご参加の方は電車バスでお越しください。

年末講演会

日時：12月23日（月・祝）午後1時開場
会場：浦和コミュニティセンター9階第5集会室、JR浦和駅東口前PARCOの9階。

プログラム：第1部 13:30～14:30 会員たちの『画像で見るこの1年』他。

第2部 15:00～16:30 講演 榎本友好氏『バンドウォッチングと鳥類標識調査（バンディング）』。

第3部 17:15～19:30 懇親会（ワシントンホテル）
参加費：100円（懇親会は4,000円の予定）
見どころ&聞きどころ：今年は、聞いてはいるがよく知らない、鳥類標識調査（バンディング）にフォーカスを当ててみました。県内でも活動実績の多い山科鳥類研究所標識調査員・榎本友好氏をお呼びし、バンディングの目的、調査の方法や現場の様子などスライドを見ながらお話していただきます。

第1部の映像・画像を募集中です。あなたの傑作をビデオ、スライドショーは3～5分程度に編集、スライドは12枚程度でお申込みください。映像・画像、懇親会の申込みは葉書またはメールで橋口長和、

まで。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：12月28日（土）

集合：午前9時20分、宇和田公園駐車場。
交通：東武伊勢崎線東武動物公園駅東口から境庫庫行きバス8:50発で「上宇和田」下車。
北方向に徒歩約5分。

担当：中里、植平、佐藤、佐野、竹山、村上
見どころ：公園の中は、木々の梢を冷たいこがらしが揺らす音だけが流れていきます。足元では落ち葉を踏みしめる音が心地よく聞こえます。1年間楽しませてくれた鳥達に感謝を込めて年の瀬を締めくくります。

※今月号は、ここ宇和田公園が特集です。

埼玉県野鳥チェックリスト2013年版 日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

『日本鳥類目録改訂第7版』（日本鳥学会、2012年9月15日発行）にほぼ準拠した新リストを作成しました。

1978年3月15日に発行された『埼玉県動物誌』（埼玉県動物誌編集委員会編、埼玉県教育委員会発行）で、埼玉県内の野鳥として18目52科258種が記録されました。これには、江戸時代の文献に記録が残っているが、近年観察されていない種なども含まれています。

そこで当会（当時日本野鳥の会埼玉県支部）として新たに県内野鳥リストを作成するに当たり、私たちの時代に密接なリストにするため、『埼玉県動物誌』を記念すべきひとつの区切りとして、それ以後に記録された種のみで、新リストを作ることにしました。

その後更新する度に新たに記録された種を加え、『鳥類目録第6版』に基づく2011年版まで続き、今回『第7版』が発行されたことにより、大幅に改訂した訳です。

コジュケイは第6版でも外来種、シラコバトは第7版で関東北部の集団は外来種とされましたが、ともに県内の自然環境に密接に結びついている大切な種として、県内リストには残してあります。「第7版にほぼ準拠」とあるのは、そのためです。

新たに追加されたのは、アラナミキンクロ（2013年3月25日本庄市、本誌2013年6月第350号）、チフチャブ（2011年12月24日吉川市、2013年4月第348号）、ホシムクドリ（2011年12月18日鴻巣市、2012年4月第336号）と、ムシクイ科オオムシクイの4種です。

従来「ジジロジジロ」と鳴くメボソムシクイは亜種コメボソムシクイとされていましたが、第7版では、DNA配列、音声、外部形態の研究から、オオムシクイという種であるとされました。県内で亜種コメボソムシクイがしばしば観察されているのは周知のことと言えますので、新リストにはオオムシクイを加えました。

2013年版の新リストは、22目68科329種です。



行事報告

4月14日(日) 所沢市 狭山湖

参加: 23名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ トビ
サシバ コジュケイ キジバト カワセミ アオ
ゲラ コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ
モズ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シ
ジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラ
ヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス
ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外:
ガビチョウ、ソウシチョウ、ドバト) 狭山湖の北
東に隣接する「トトロの森1号地」等の緑地を中
心に歩いた。好適な探鳥環境だが、この時季は端
境期。期待と不安半々だったが、アオゲラやマヒ
ワの出現で盛り上がった。鳥合わせのさなか上空
をサシバが飛翔、フィナーレを飾ってくれた。

「春たけて 冬の主役の 去りし湖(うみ) サシバの
一羽 夏を運べり」 (石光 章)

6月2日(日) 長野県魚沼市 銀山平

参加: 40名 天気: 晴

カワウ オシドリ ハチクマ トビ ノスリ ク
マタカ キジバト ホトトギス アマツバメ ア
カゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハク
セキレイ セグロセキレイ ウグイス キビタキ
オオルリ ホオジロ ノジコ カワラヒワ イカ
ル ニュウナイスズメ ムクドリ カケス ハシ
ボソガラス ハシブトガラス (27種) 初めての探
鳥地。銀山平船着場では、ハチクマがディスプレイ・
フライトをしている姿を見られた。銀山平森
林公園に入る所で、ヘビを捕まえたノスリが飛ん
できた。昼食後、森林公園内を回る。所々に残雪
があり、この時季に雪の上を歩く事ができた。最
後に、ハチクマが真青な空を飛んでくれた。イヌ
ワシは、現れてくれなかった。 (入山 博)

7月20日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 36名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ オオタカ コジュ
ケイ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ

ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス メジロ カ
ワラヒワ スズメ オナガ ハシブトガラス (17
種) (番外: ガビチョウ) 公園内は風があまり通ら
ず、非常に暑い。なるべく日陰になる道を選んで
歩いた。野鳥の声も姿も少なかったが、ガビチョ
ウだけはいつも通り、大きな声を上げていた。ウ
バユリや、ヤマユリを見ながら運動広場まで歩い
た。蝶も少なかったが、オオムラサキにはなんと
か出会えた。 (中村豊己)

7月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 14名

相原修一、石塚敬二郎、榎本秀和、海老原教子、
海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、
柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫、吉
原早苗、吉原俊雄

7月21日(日) さいたま市 三室地区

参加: 49名 天気: 晴

アオサギ カルガモ オオタカ キジバト カワ
セミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセ
キレイ ヒヨドリ シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクド
リ ハシボソガラス ハシブトガラス (19種) (番
外: ドバト) 見沼代用水西縁沿いの木陰道を中心
としたコース。三室での7年ぶりのコムクドリ出
現に大盛り上がり。遠くの樹間に休むオオタカを
全員で観察。沿道にホオジロの轉りがあふれる。
セキレイ、ツバメ、ムクドリなどの幼鳥が目立ち、
成鳥との姿・行動の違いを観察。 (浅見 徹)

7月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 30名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ササゴイ ダイサギ アオ
サギ カルガモ トビ イカルチドリ キジバト
コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セ
グロセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ メジロ
ホオジロ カワラヒワ スズメ オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (23種) (番外: ドバ
ト) 前日の雨で浅瀬がなくなり、水辺で生活する
鳥たちが見られないのではないかと心配された。
特にこの存在は大きい。幸い夏の見どころとして
頼りにしているササゴイを近くに見ることができ
たので、それを目当てで参加した人にも喜んでも
らえた。 (長谷部謙二)



●探鳥会参加者名簿決着

(公財)日本野鳥の会普及室から 10 月 9 日付け書面が届き、年齢の記入は必要ないことになりました。保険関係の必須条件は氏名と記載可能な範囲の住所のみですが、整理の必要上、会員かどうか、小・中学生か高校生以上か、また万一何か連絡が必要な場合に備えて、できれば電話番号もご記入ください。

●オリンピックカヌー競技場建設地変更を求めるネット署名活動

葛西臨海公園に建設が予定されているカヌー(スラローム)競技場の建設地変更を要望する運動を、日本野鳥の会東京が中心となって進めていることは、すでに本誌でもお伝えしていますが、この度インターネットによる署名活動が始まりました。

「葛西臨海公園 カヌー」で検索、いくつかあるサイトの中から「環境保全と両立するオリンピックの開催のため……」を開いて、内容をお読みください。ご賛同いただける場合は署名の発信をお願いします。

●野鳥の会東京の取り組み報告会など

上記カヌー競技場問題については 9 月 28 日(土)午後、財団本部会議室で団体署名を送った各団体に対する報告会が開催され、当会からは青木正俊幹事が出席しました。

賛同 122 団体のうち集まったのは、日本自然保護協会、ラムサール・ネットワーク、日本都市計画家協会、西なぎさ発東京里海エイド、葛西東渚・鳥類園友の会に、当会

を含めて計 6 団体。オリンピック開催決定前から決定後の様々な話し合い、マスコミへの PR などについて報告されました。

日本野鳥の会東京の会報『ユリカモメ』11 月号によれば、翌 9 月 30 日(月)には招致委員会と 6 回目の交渉をして、次は 11 月を予定しているとのことでした。

会員数は

11 月 1 日現在 1,846 人。

活動と予定

●10 月の活動

10月12日(土)『しらこぼと』10月号校正(相原修一、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

10月20日(日)役員会(司会：田邊八州雄、各部の報告・関東ブロック協議会出席者・1～4月行事予定・その他)。

10月21日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け『しらこぼと』11月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

●12 月の予定

12月7日(土)編集部・普及部・研究部会。

12月14日(土)1月号校正(午後4時から)。

12月15日(日)役員会(午後4時から)。

12月21日(土)袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

職場の駐車場の1本の常緑樹で10月31日まではアオマツムシが鳴いていたが、昨日は声が聞こえなかった。ツツレサセオオロギの声も随分弱々しくなった。鳴く虫の季節も終わりのようだ。今年は、秋の渡りの鳥をほとんど見えていない。暮れには、憧れだった出水に行く予定なので、そろそろ野鳥モードに切り替えねば。(藤)

しらこぼと 2013 年 12 月号(第 356 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに掲載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社